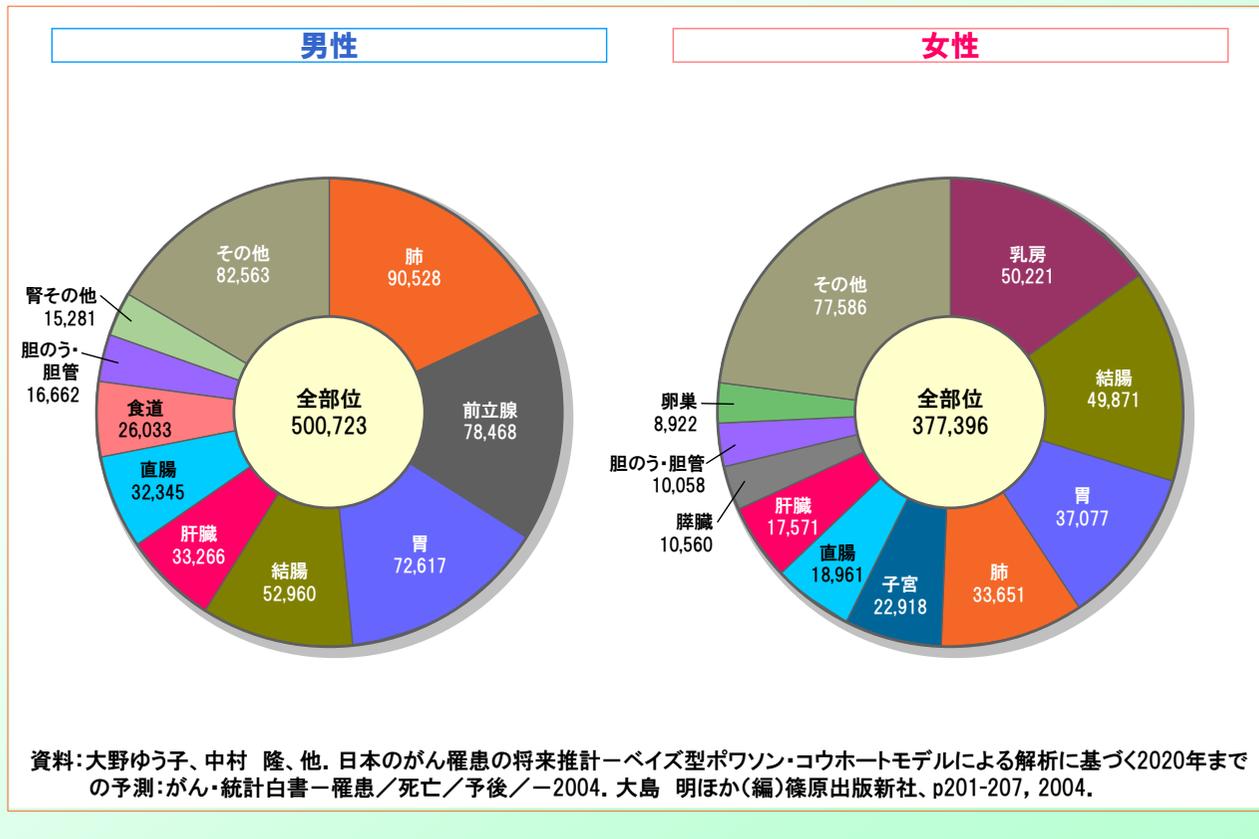


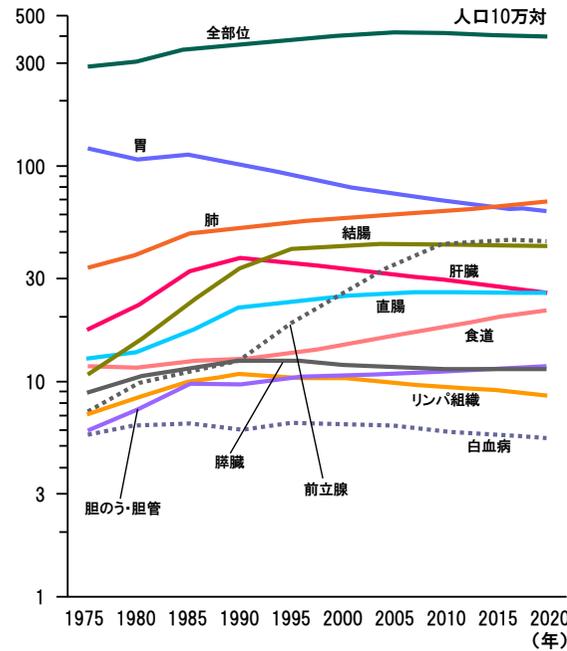
2020年におけるがん患者数(推計)



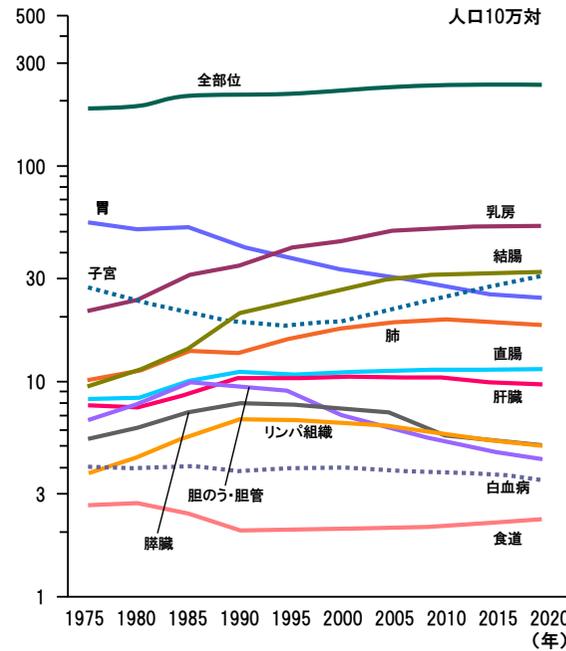
2020年におけるがん患者数の推計によると、男性では肺がんの新患者数が約91000人、女性では約34000人になると予測されています。

2020年までの部位別年齢調整罹患率の予測

男性



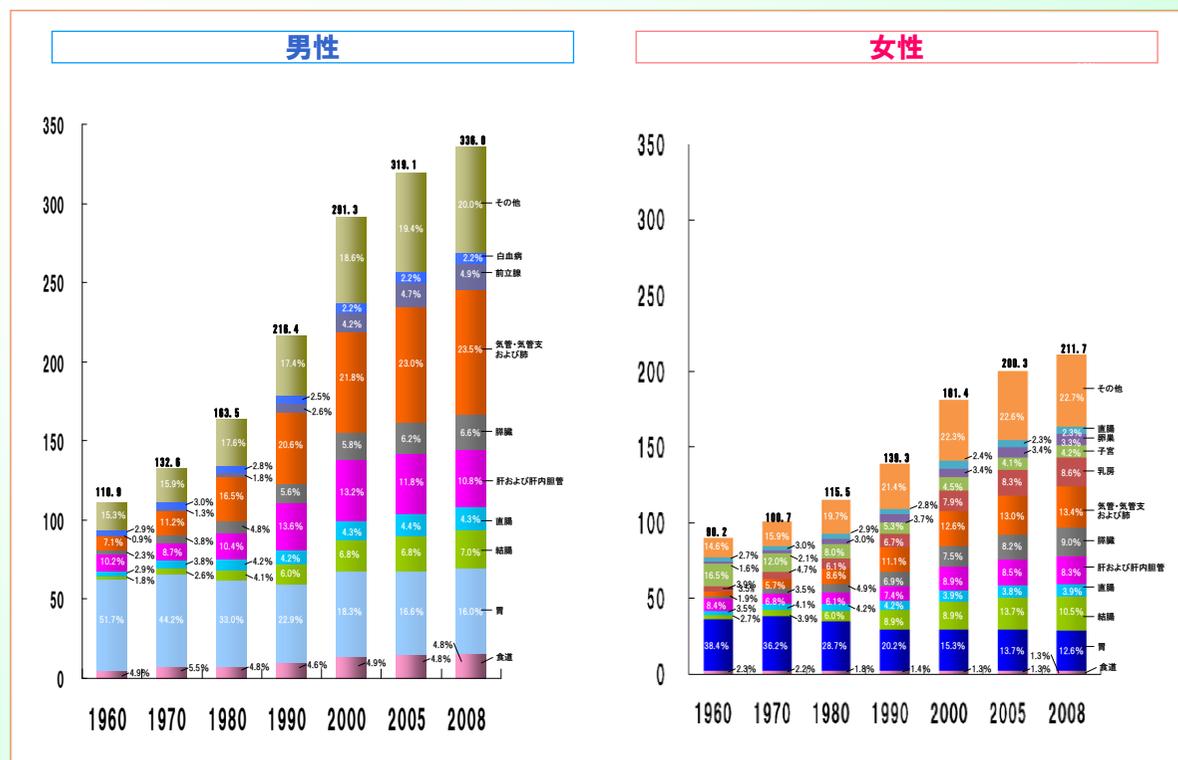
女性



資料:大野ゆう子、中村 隆、他. 日本のがん罹患の将来推計—ベイズ型ポワソン・コウホートモデルによる解析に基づく2020年までの予測:がん・統計白書—罹患/死亡/予後/—2004. 大島 明ほか(編)篠原出版社、p201-207, 2004.

2020年までのがんの部位別罹患率の予測は図のようになり、肺がんは男性および女性ともに増加傾向にあります。

部位別がん死亡率の推移



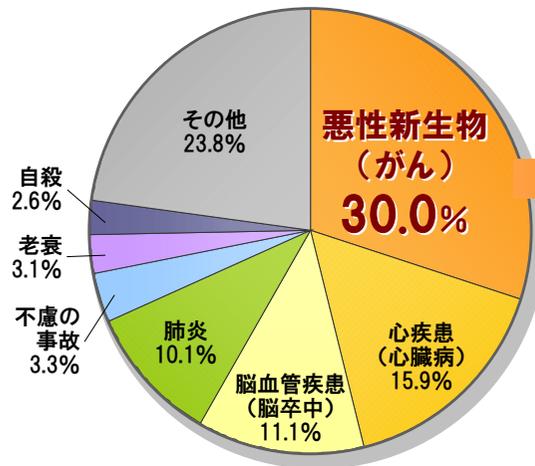
資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「平成21年人口動態統計」

がんによる死亡を、その部位別にみると、男性では「肺がん(気管・気管支および肺)」が最も多く、2005年では全体の23.0%を占めており、次いで「胃がん」16.6%、「肝臓がん(肝および肝内胆管)」11.9%の順となっています。一方、女性では「胃がん」が最も多く、全体の13.7%を占めており、次いで「肺がん(気管・気管支および肺)」13.0%、「結腸がん」10.6%の順となっています。

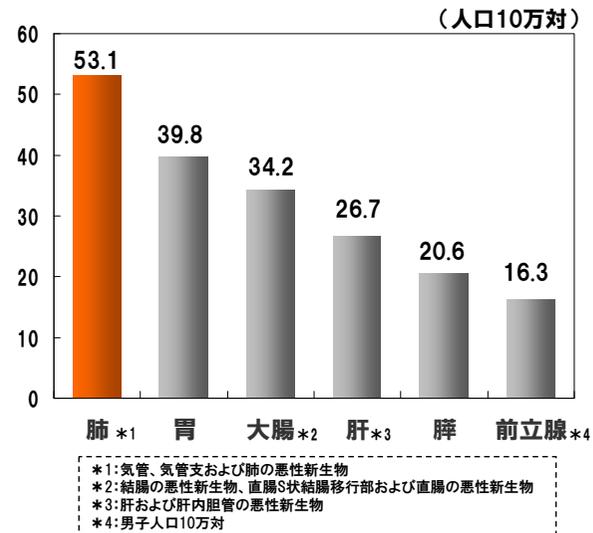
肺がんによる死亡率

日本における死因の第1位は、「がん」です。
また、部位別がん死亡率の第1位は、「肺がん」です。

■ 主な死因別死亡数の割合(2008年)



■ 主な部位別がん死亡率(2008年)



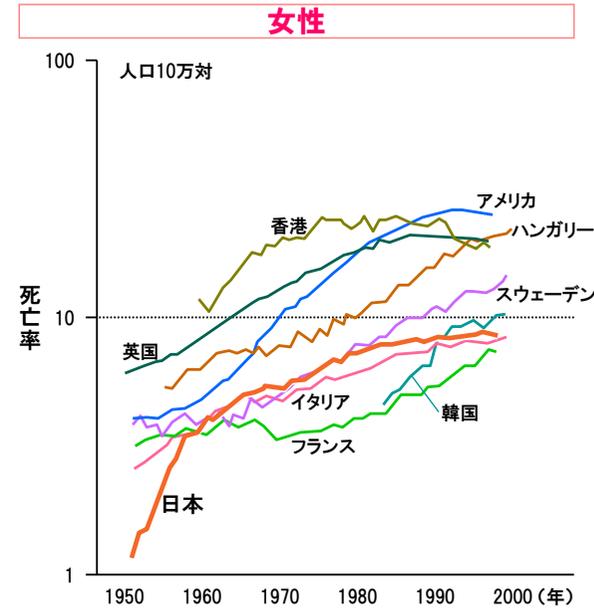
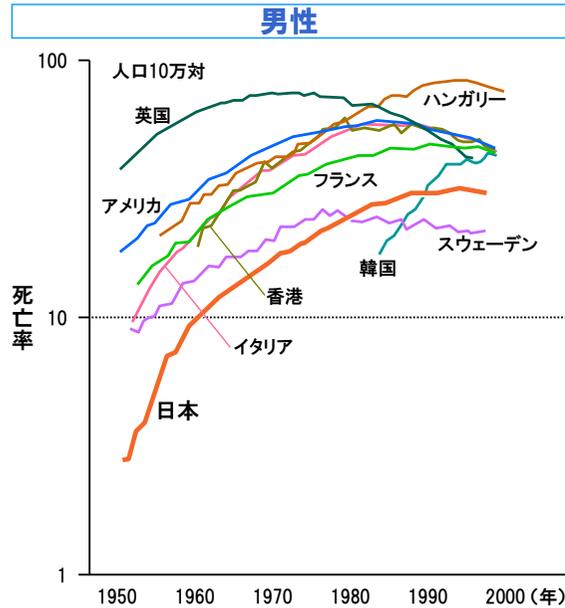
厚生労働省:平成21年人口動態統計

2008年の集計では、日本における死因の第1位は「がん」であり、部位別がん死亡率の第1位は「肺がん」です。

肺がんによる死亡率の推移

1950年代から、肺がんは世界的に増加しています。

■ 肺がん死亡率の推移の国際比較 (WHO mortality database: 世界標準人口による年齢調整死亡率)

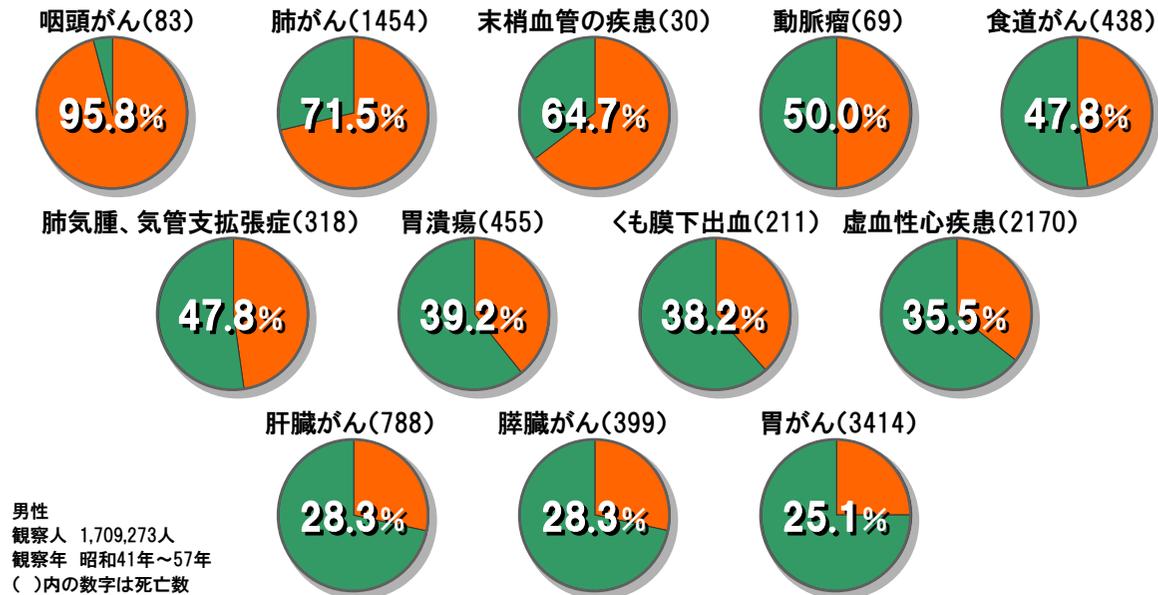


WHO mortality database, <http://www.ciesin.org/IC/who/MortalityDatabase.html>

肺がんによる死亡率は、1950年代から世界的に増加してきましたが、男性に関しては英国やアメリカなど一部の国では減少傾向に転じてきています。

喫煙とがんの関係(男性)

■がんの部位別死亡に及ぼす毎日喫煙の寄与危険度(%)



がんの統計2003年度版(財団法人がん研究振興財団発行)より
資料:平山 雄著「予防がん学」その新しい展開、メディサイエンス社(東京)、1987年

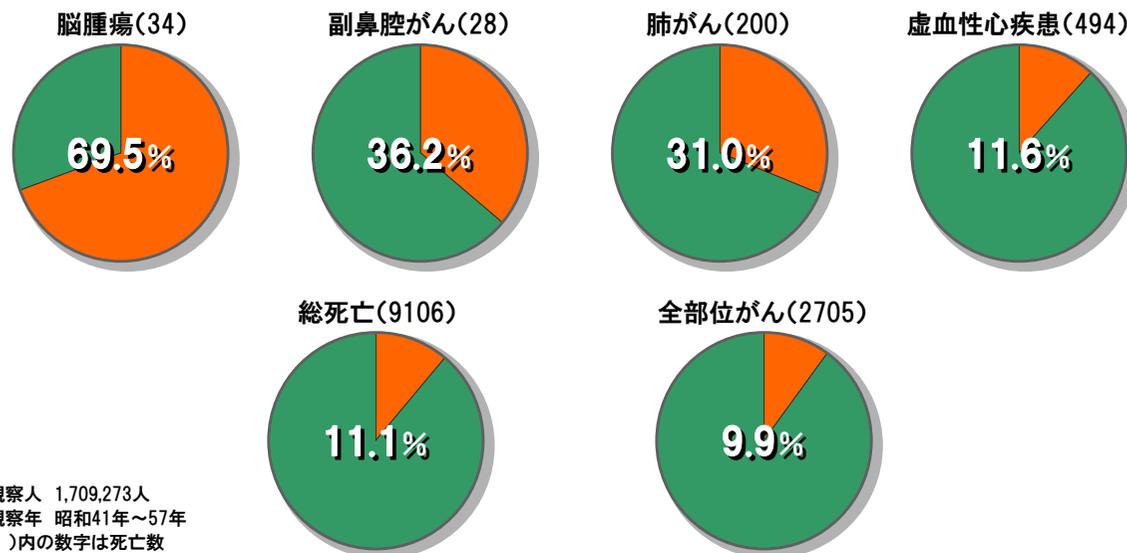
男性におけるがんの部位別死亡に及ぼす毎日喫煙の寄与危険度を示します。これはタバコがなくなれば、どれだけその死亡が減るかという目安です。

喉頭がんの95.8%、肺癌の71.5%、食道がんの47.8%に毎日喫煙が寄与しています。

喫煙とがんの関係

— 非喫煙者の妻に対する喫煙夫の影響 —

■非喫煙の妻の特定死因に及ぼす夫の喫煙の寄与危険度(%)

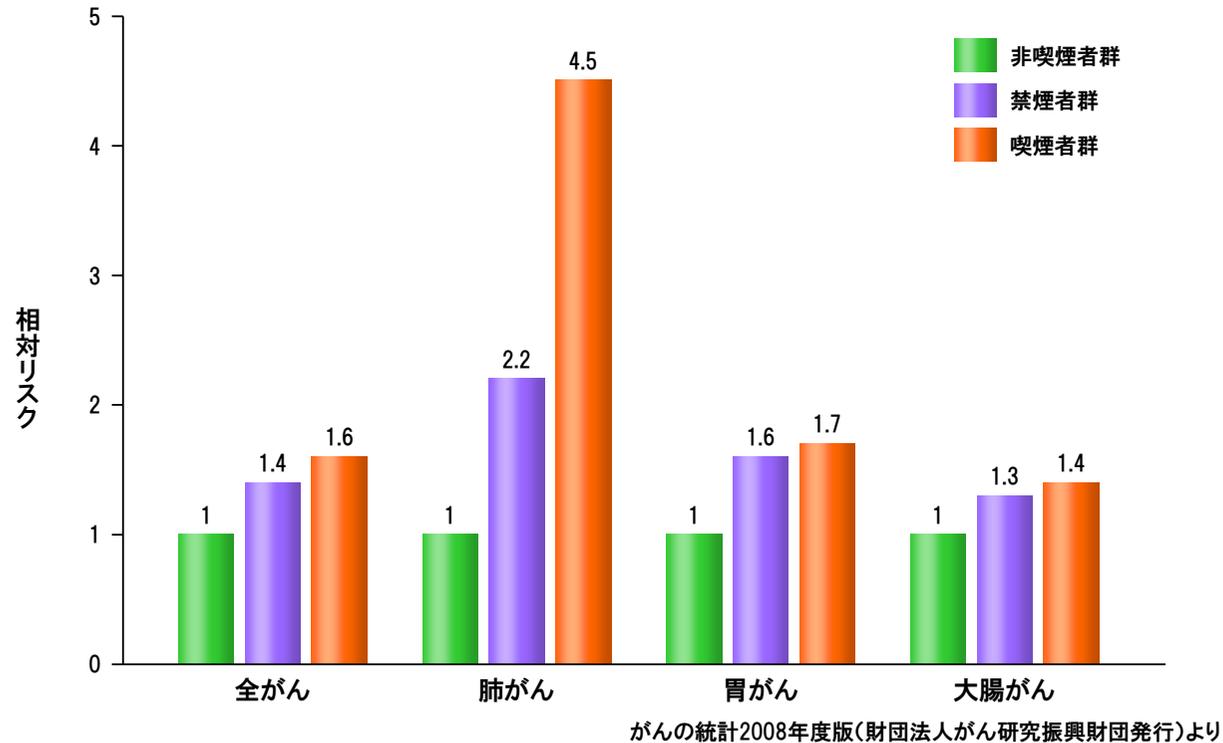


がんの統計2003年度版(財団法人がん研究振興財団発行)より
資料:平山 雄著「予防がん学」-その新しい展開-、メディサイエンス社(東京)、1987年

非喫煙の妻の特定死因に及ぼす夫の喫煙の寄与危険度を示します。
非喫煙の妻の肺がんの31.0%に夫の喫煙が寄与しています。

喫煙とがんの関係(男性)

■非喫煙者群のがん罹患リスクを1とした場合の禁煙者群および喫煙者群の相対リスク

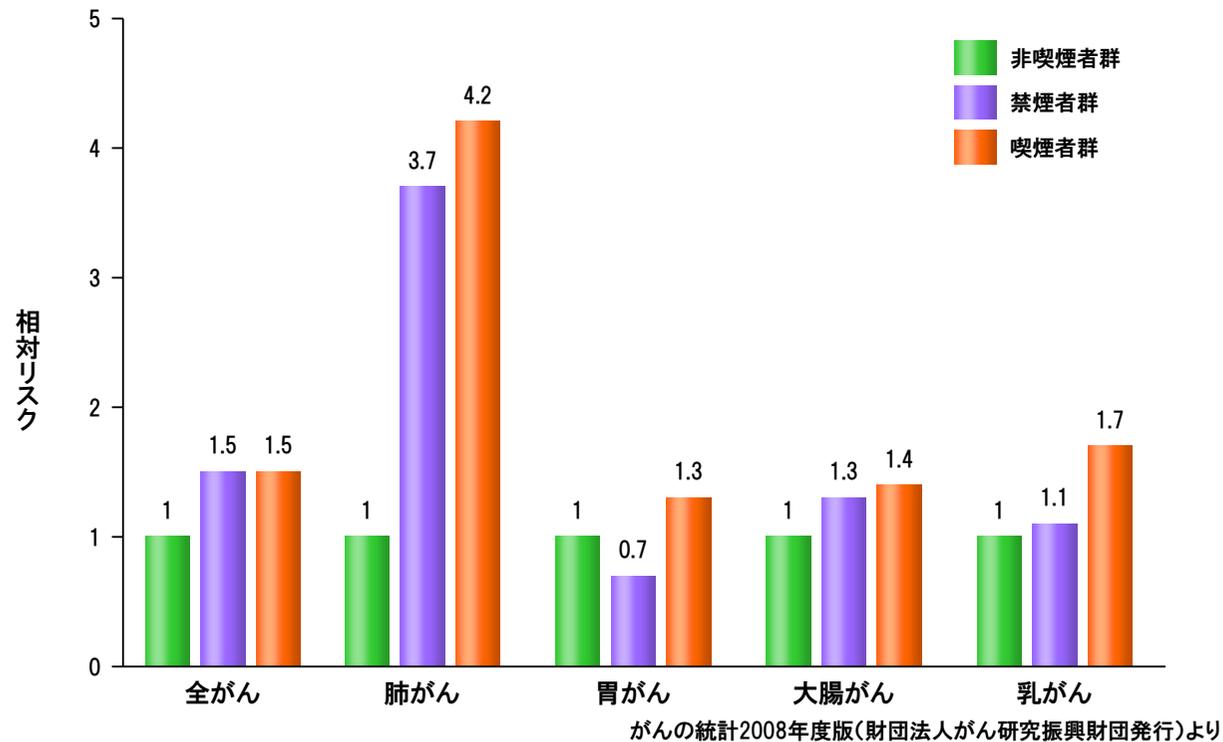


男性における非喫煙者群のがん罹患リスクを1とした場合の禁煙者群および喫煙者群の相対リスクを示します。

全がん、胃がん、大腸がんでは、非喫煙者群に比べ、禁煙者群および喫煙者群とも罹患リスクは1.3から1.7倍に増加する程度ですが、肺がんでは、非喫煙者群に比べ、禁煙者群では2.2倍、喫煙者群では4.5倍に罹患リスクが増加します。

喫煙とがんの関係(女性)

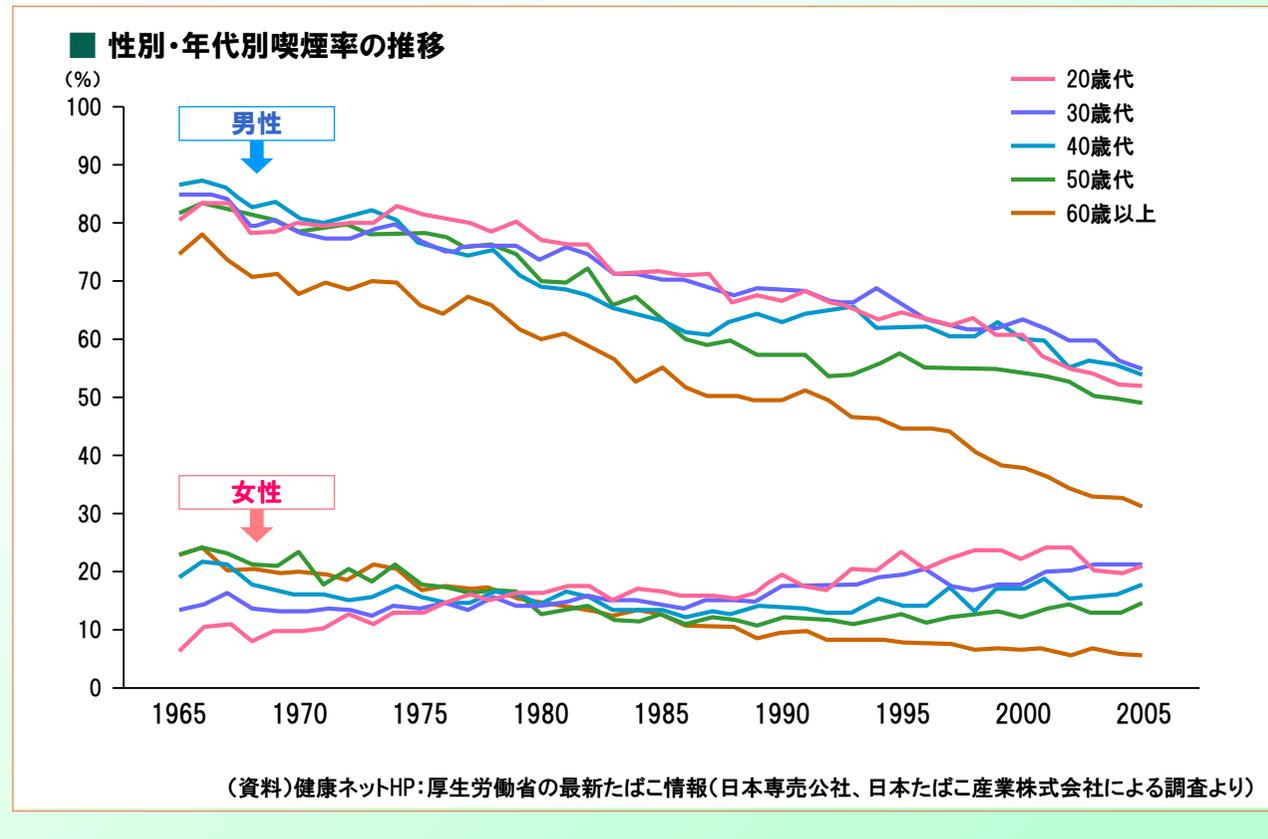
■非喫煙者群のがん罹患リスクを1とした場合の禁煙者群および喫煙者群の相対リスク



女性における非喫煙者群のがん罹患リスクを1とした場合の禁煙者群および喫煙者群の相対リスクを示します。

全がん、胃がん、大腸がん、乳がんでは、非喫煙者群に比べ、禁煙者群および喫煙者群とも罹患リスクは0.7から1.7倍程度ですが、肺がんでは、非喫煙者群に比べ、禁煙者群では3.7倍、喫煙者群では4.2倍に罹患リスクが増加します。

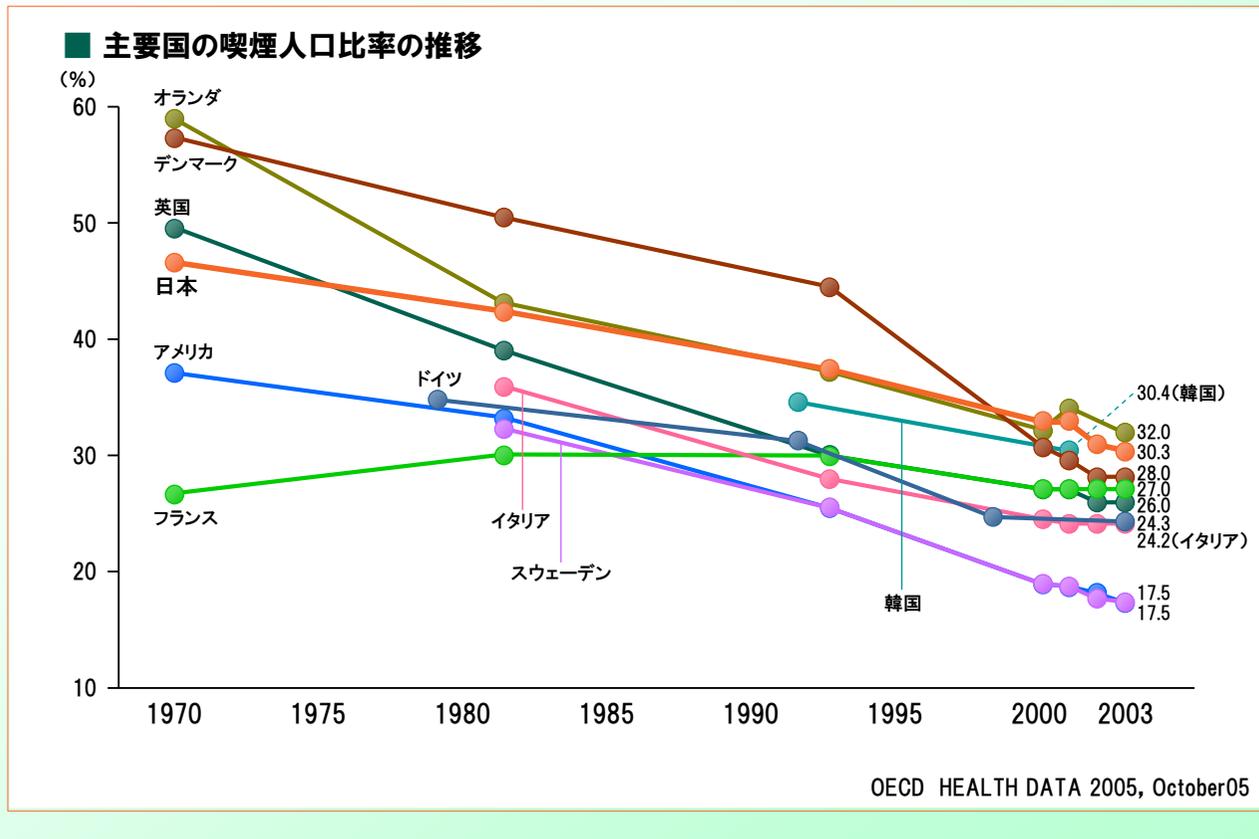
喫煙率の推移



日本たばこ産業の「2005年全国たばこ喫煙者率調査」によると、成人男性の平均喫煙率は45.8%でした。これは、1965年以降のピーク時と比較すると、約45%減少したことになります。2005年の喫煙率が一番高い年代は30歳代で54.6%でした。

これに対し、成人女性の平均喫煙率は13.8%であり、この40年間、14%前後で推移しています。年代別にみると、高齢者は減少傾向ですが、若者は増加傾向にあり、2005年の順序は40年前と逆になっています。2005年において喫煙率が一番高いのは20歳代と30歳代の20.9%、一番低いのは60歳以上の5.5%です。

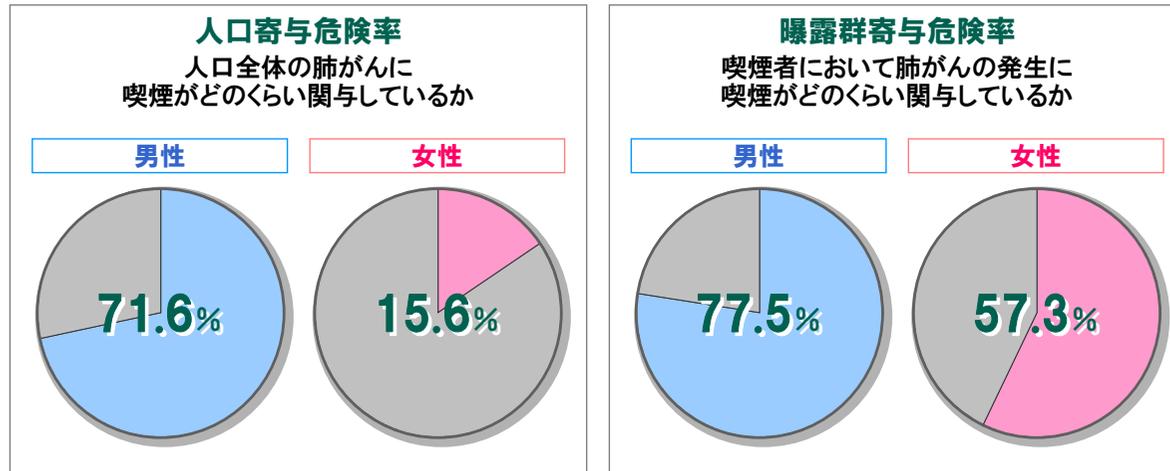
喫煙率の推移



喫煙率は、各国とも年々減少傾向を示しています。

喫煙と肺がんの関係

肺がんの最大の原因は喫煙です。



富永祐民:癌と化学療法 25:789-796, 1998

肺がんに関する正しい知識を持ち、禁煙を推し進めることが肺がんに対して最も重要になります。

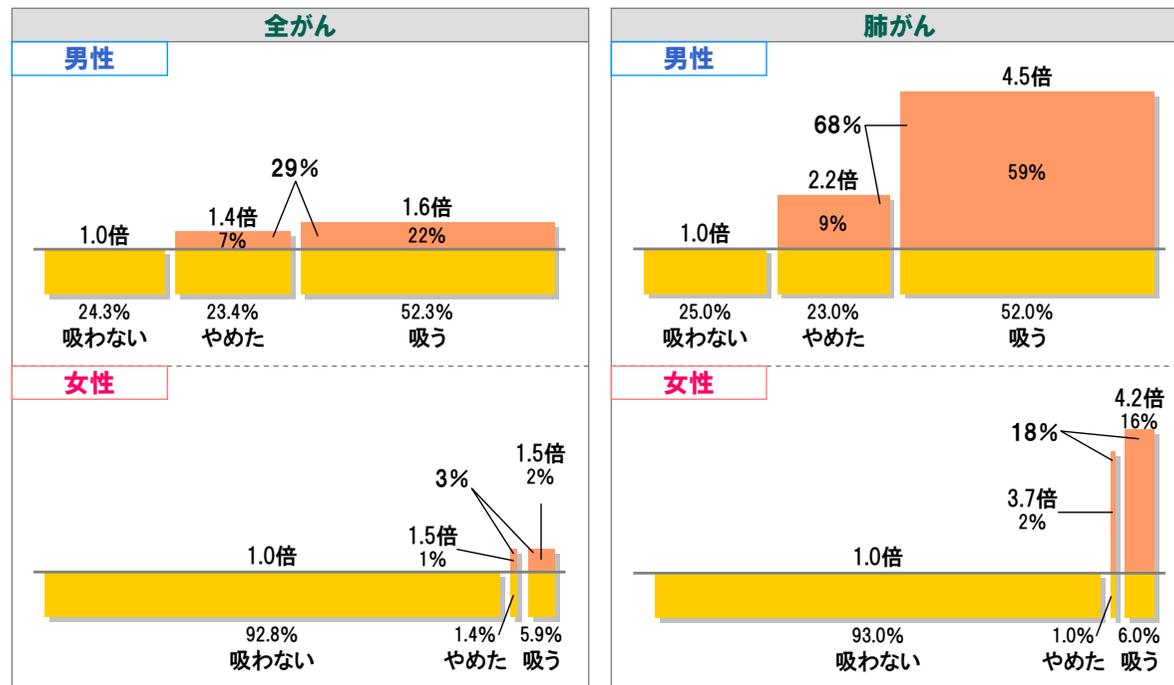
喫煙が及ぼす肺がんへの人口寄与危険率および曝露群寄与危険率を示します。

非喫煙者も含めた人口全体の肺がんのうち、男性では71.6%、女性では15.6%に喫煙が寄与しています。

また、喫煙者における肺がんのうち、男性では77.5%、女性では57.3%に喫煙が寄与しています。

喫煙と肺がんの関係

■ 喫煙によるがん罹患の人口寄与割合



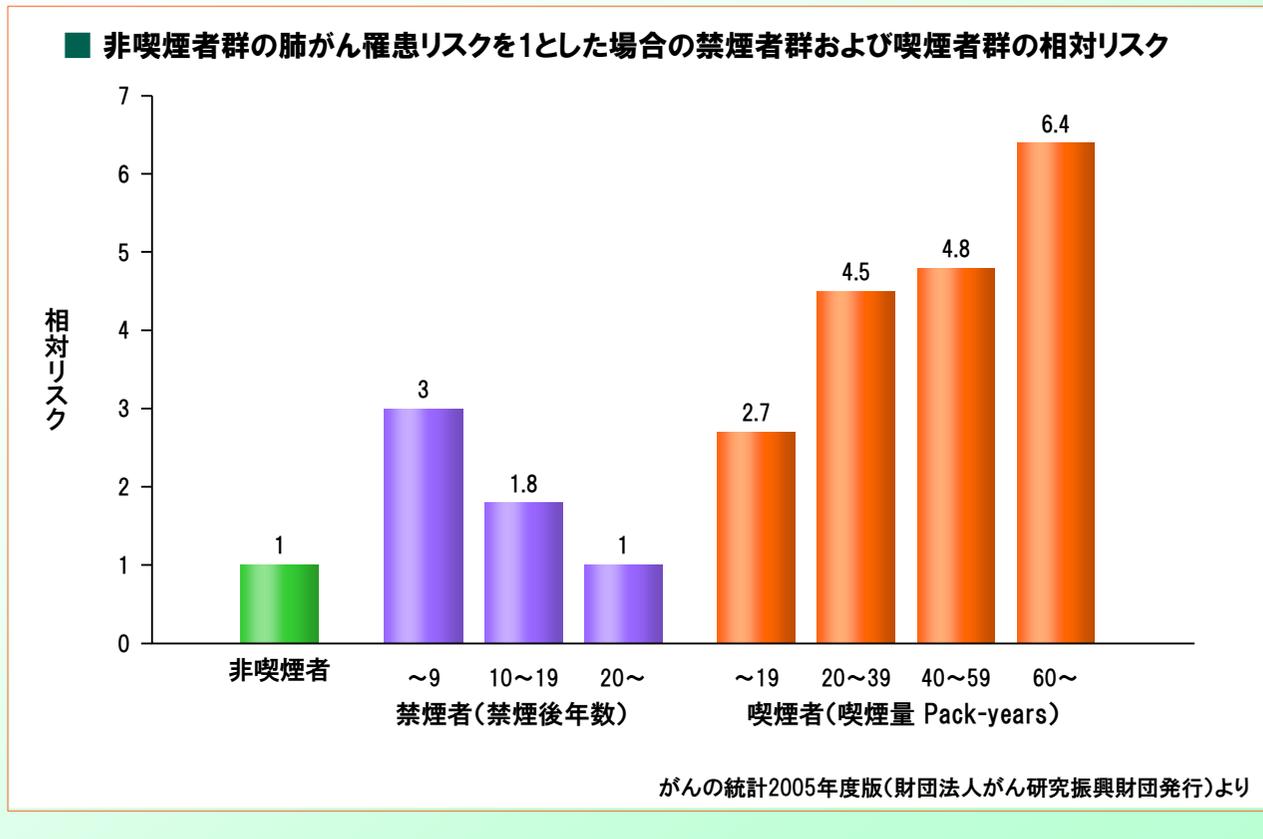
がんの統計2008年度版(財団法人がん研究振興財団発行)より

喫煙によるがん罹患の人口寄与割合を示します。

人口寄与割合とは、現在の喫煙者および禁煙者が、すべて非喫煙者に置き換わったとしたら、がんになる人がどの程度減るのかを意味しています。

男性では全がんの29%、肺がんの68%、女性では全がんの3%、肺がんの18%が減ると推定されています。

喫煙と肺がんの関係(男性)

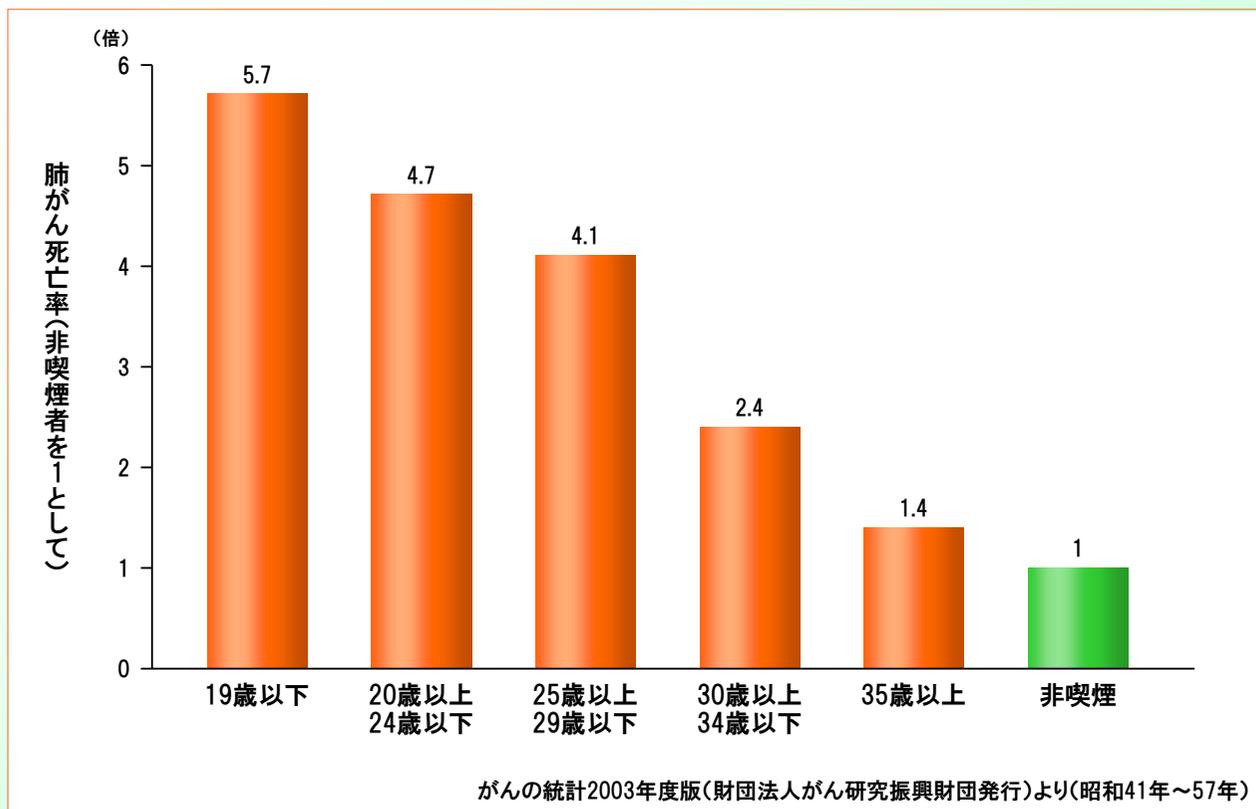


非喫煙者群の肺がん罹患リスクを1とした場合の禁煙者群および喫煙者群の相対リスクを示します。

禁煙者では、禁煙後の年数が長いほど肺がん罹患するリスクは低くなりますが、非喫煙者と同じレベルになるには20年以上かかります。

喫煙者では、喫煙量が多いほど、肺がん罹患するリスクは高くなります。

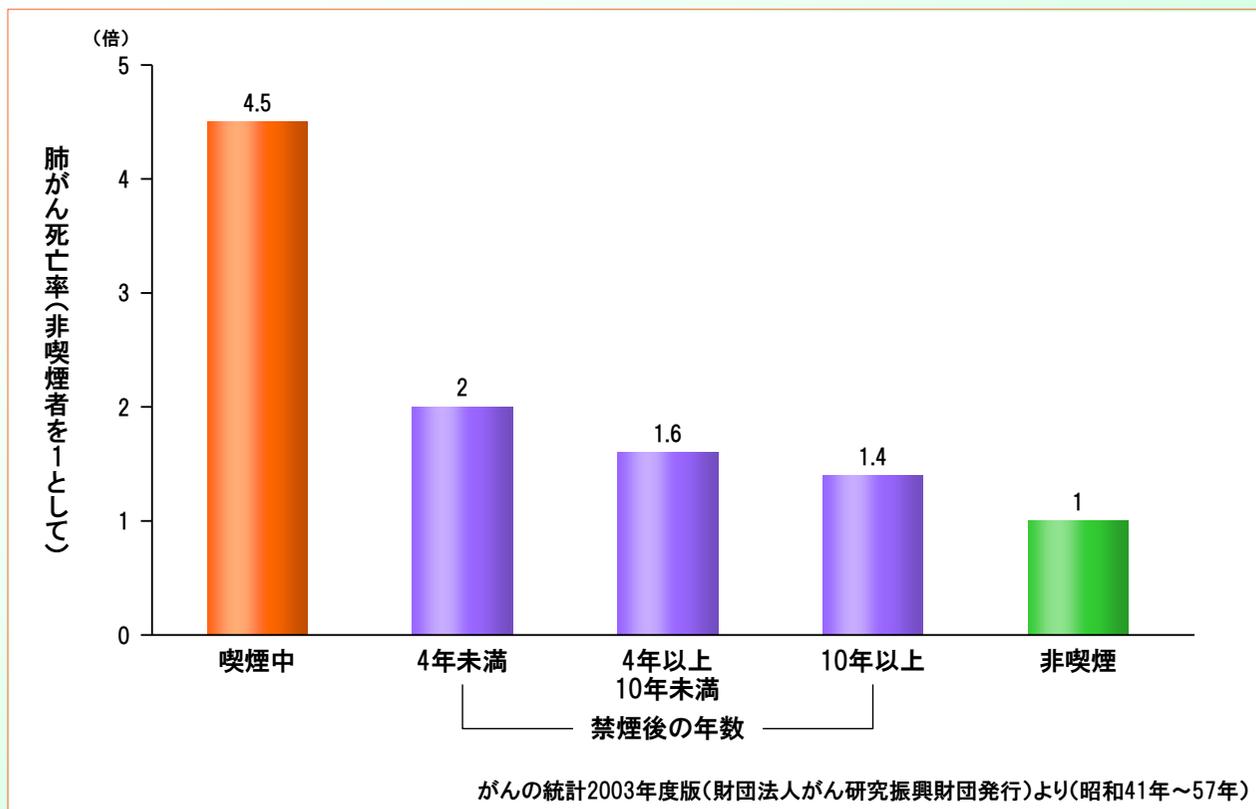
喫煙開始年齢別にみた肺がん標準死亡率 (男性)



男性における喫煙開始年齢別にみた肺がん標準死亡率を示します。

喫煙開始年齢が早いほど肺がん死亡率は高く、19歳以下で喫煙を開始した場合、肺がん死亡率が非喫煙者に比べて約6倍高いと報告されています。

喫煙をやめてからの年数と肺がん死亡率の関係 (男性)



男性における喫煙をやめてからの年数と肺がん死亡率の関係を示します。

喫煙者では、喫煙を続けた場合よりも禁煙したほうが肺がん死亡率は低くなり、禁煙後の年数が長いほど低下しています。